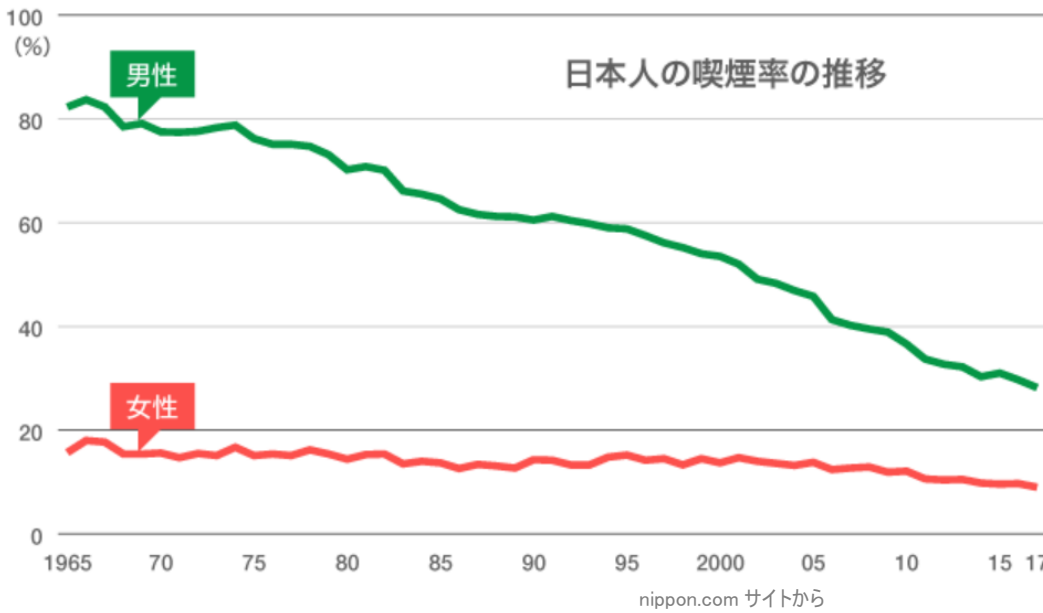
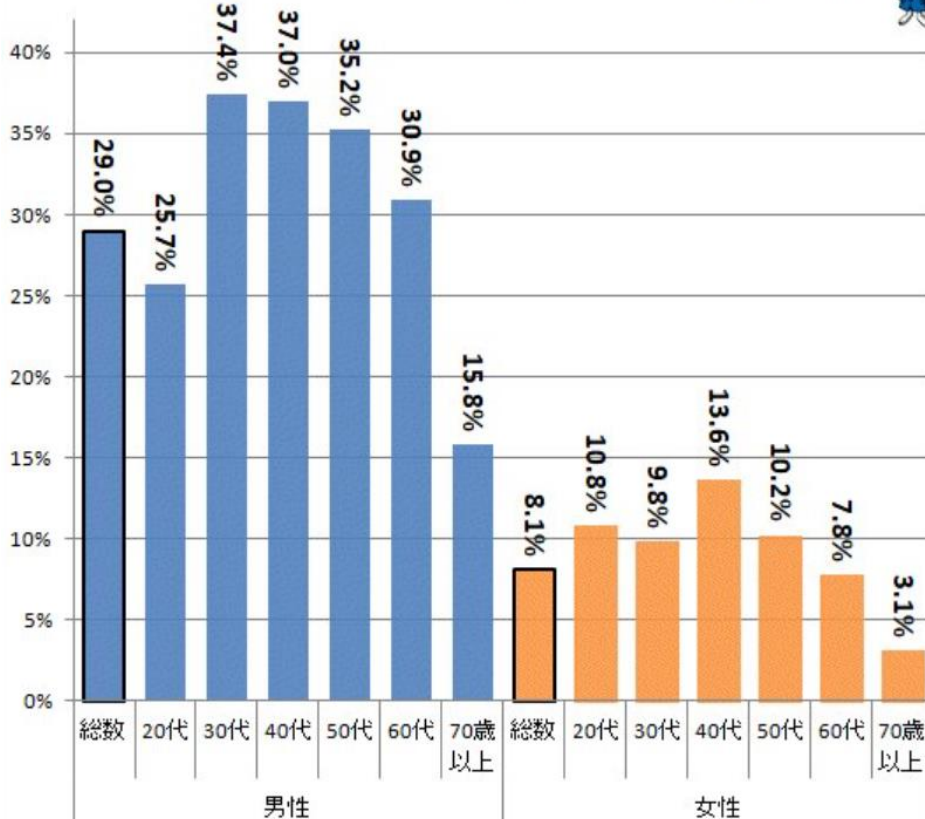


かつて、ニコチン依存症や有害性の事がほとんど知られていなかった頃、タバコは「大人の嗜好品^{しこうひん}」と呼ばれ、多くの成人男性が日常生活のさまざまな場面で吸っていました。下のグラフにあるように約60年前には男性の喫煙率は80%を超えていました。この頃、ほとんどの職場には灰皿がありタバコを吸いながら仕事をするのが普通だったという、今では考えられない時代でした。



しかし、タバコの有害性と健康被害が明らかになるにつれ、着実に喫煙率は低下し、現在の男性喫煙率は30%を下回っています。ほとんどの男性がタバコ吸っていた時代から、ほとんどの男性がタバコを吸わない時代になったわけです。

現在習慣的に喫煙している人の割合(男女別・年齢階層別)(2018年)



そして、左図のグラフにあるように、年齢層別の喫煙率を見ると、一番若い20歳代は一段と低い事がわかります。つまり、若い人ほどタバコを吸わない傾向にあるのです。

いかがでしょうか、これからはタバコを吸わないのが当たり前の時代です。わかっておいて下さい。

産業デザイン科
奥田恭久